

## 『北方圏学術情報センター年報』第2号の発刊に寄せて

北翔大学 学長 相内 眞子

この度『北方圏学術情報センター年報』第2号が発刊されました。創刊から1年、本学の教員を中心に、他教育・研究機関及び産業界からの共同研究者の参画を得て、熱心な研究活動が継続しておりますことを、まことに喜ばしく、誇りに思います。

さて、北方圏学術情報センター（愛称・ポルト）が、人間福祉学部付設の「北方圏生活福祉研究所」と、生涯学習システム学部付設の「生涯学習研究所」の両研究所を統合し再スタートいたしましたことは、創刊号でお知らせした通りです。これら研究所の主要なテーマに基づく研究活動は、北方圏学術情報センター内の「生活福祉研究部」と「生涯学習研究部」にそれぞれ引き継がれ、その成果は、「北方圏住民のQOLの向上に関する総合的研究」として、広く社会に還元されてまいりました。特に本号は、「生涯学習研究所」から出発した「生涯学習研究部」の多様なアプローチによる研究成果が、初めて掲載された記念すべき第1号でもあります。その他にも、北方圏の生活文化に対する深い洞察と理解、そして共感に基づく多彩な研究論文、研究報告、作品が発表されております。

世界的な規模で、自然環境や社会環境が挑戦を受け脅かされつつある現在、「生活福祉・生活文化の向上を目的として、生活環境〈衣食住〉、地域福祉、心の健康、生涯学習としての芸術などの分野について、総合的かつ学際的な視点から研究を行う」と謳う北方圏学術情報センターの存在意義は、センター創設から9年を経て、ますます高まっていると感じています。

「生活福祉・生活文化の向上」とは、「幸せな生き方」を追求する試みに他なりません。日常生活のひとこまひとこまに、喜びや楽しみ、充実感や達成感を見出すことのできる生活文化の創造と再発見、さらに、これらに基づく新しい社会の仕組みやルールの提示こそ、社会に還元すべき「生活福祉研究」と「生涯学習研究」の果実であり、大学と地域社会が新たな関係を構築するための重要な鍵といえるでしょう。

北方圏学術情報センターには、何より「幸せ」の実感が行き交う、文字通りの「ポルト（港）」として、また地域研究の発信基地として、さらなる活動の深化と発展を期待しています。